

川崎市歌の認知度の向上（平成29年3月）

川崎市歌は、昭和9年に、市制10周年を記念して、歌詞は公募により小林俊三氏の作品が選ばれ、これに高階哲夫氏が曲をつけて誕生しました。

川崎市歌は、昭和44年と平成16年に、その時代に合うように歌詞の一部が改められましたが、市民の皆さんに親しまれ、歌い継がれていくよう、市立学校などでさまざまな取り組みがされています。

<議会での審議経過と市の取り組み>

【平成15年第3回定例会（7月）】

質問

川崎市制10周年を記念して制作された川崎市歌について、市民アンケートの結果や、歌詞に対する市長の感想はいかがですか。来年は市制80周年を迎え、ミュージア川崎もオープンしますが、その時期に合わせて市歌をつくることについての考えを伺います。

答弁

川崎市歌の認知度、見直しに対する意見等についてのアンケートを実施しましたところ、市歌を知っている人は約14%にとどまっています。

また、歌詞は文語体で、当時の状況を反映した本市の歴史を感じさせますが、歌詞の一部に現在の本市の状況とはかけ離れた部分もあります。

市制80周年や音楽のまち・かわさきとして、新たに市歌をつくることは考えていませんが、市歌の歌詞の改訂が可能かどうか検討し、市民の方々により親しんでいただけるようにしていきたいと考えています。

要望

市歌の認知度が低いのに驚きましたが、歌う機会も少なく、また聞く機会も少ないからだと思います。学校でも歌詞が難しいので教えていないということです。

市制80周年、また、音楽のまち・かわさきをスタートさせる、あるいはミュージア川崎のこけら落としは、市歌を時代に合うように見直し、発表する良い機会です。まずは、歌詞の改訂が可能かどうかを探ることから早期に取り組んでいただきたいと思います。

取り組みとしては・・・

市歌の歌詞について検討した結果、基本的な部分は残し、現在の本市の状況と異なり、違和感のある部分を、作詞者の御遺族の方の御了解を得て改訂しました。

改訂後の市歌は、平成16年7月1日、ミュージア川崎シンフォニーホールのこけら落としとなった市政80周年記念式典で披露され、東京交響楽団の演奏等で来場者により斉唱されました。

【平成16年予算審査特別委員会（3月）】

質問

市歌の普及やPRのため、また、一緒に歌うこともできるようにCDを作製し、市施設や市民に配布・販売してはいかがでしょうか。

答弁

市歌のCDを作製して、学校や町内会・自治会、公共施設などに配布するとともに、希望する市民の皆さんには、実費での販売を検討します。

取り組みとしては・・・

●市歌を普及させるためCDを制作して、市内小中学校等へ配布し、また、区役所等の売店において300円で販売しました。それまで、市の行事でも、市歌が歌われたり、演奏されたりする機会は少なく、学校でも教えていませんでしたが、CD制作後は、それまで市歌が活用されていなかった行事においても歌唱・演奏機会が増えるようになりました。

当時販売されていたCDは、既に販売を終了しましたが、その後、「音楽のまち・かわさき」推進協議会が、川崎をテーマにした曲を集めたCDアルバム

「おんまちベストコレクション」シリーズを制作、発売しました。川崎市歌も数種類のバージョンがこちらのアルバムに収録されています。



【当時販売されていたCD（上）と「おんまちベストコレクション」シリーズ（下）】

【平成27年第3回定例会（7月）】

質問

市民が川崎市を愛し、誇りに思ってもらう手段の一つとして、横浜市のように市歌を市民なら誰でも知っている、誰もが歌える曲と位置づけ、学校で歌唱指導すべきと思いますが、いかがでしょうか。

答弁

音楽の授業等において歌唱指導を行うとともに、全ての市立学校に川崎市歌を収録したCDを配付し、学校行事での市旗掲揚の際などに使用を始めています。また、休み時間や清掃活動時に放送するなどして、より川崎市歌に親しみを持てるように取り組んでいます。

質問

シティプロモーションの新戦略の一環として、市制100周年を迎えるときには、新成人は全員川崎市歌が歌えるよう取り組むことを提案しますが、いかがでしょうか。

答弁

シティプロモーションの取り組みの一環として、市民が川崎市歌を知り、歌えるようになることは、地域への思いや愛着を高める上で意義がありますので、市民の方々により川崎市歌に親しんでいただけるよう、各種イベントや行事等さまざまな機会を通じて取り組めます。

取り組みとしては・・・

- 市立学校で次のことが実施されるよう、市歌の普及に向けて取り組んでいます。
 - ・学校の「今月の歌」や音楽の授業で練習する。
 - ・学校行事での市旗掲揚の際に曲を流す。
 - ・吹奏楽用の楽譜を全市立中学校に配布し、体育祭で演奏する。
 - ・清掃時に校内放送で曲を流す。
 - ・市制記念日前に曲を流し、斉唱する。
- 平成28年4月5日から、JR川崎駅南武線ホームの発車メロディとして「川崎市歌」が流れるようになりました。これは、川崎市立商業高等学校生徒による「高校生の力で地域を活性化する」をテーマとした“音で地域を活性化する”取り組みに対して、川崎市とJR東日本横浜支社が、その熱意と想いに応え、相互に連携協力して実現したものです。なお、楽曲のアレンジは生徒たち自ら行いました。



【川崎市立商業高等学校生徒から市長への取り組みの報告と、川崎駅長による発車メロディ導入の決定の発表の様子】

川崎市歌

川崎市歌

作詞 小林 俊三
作曲 高階 哲夫

一 見よ 東に 寄する 晩潮

富士の姿を 真澄に仰ぎ

かがやく雲を いろどる多摩川

希望満つる 朝風

今ぞ明けゆく わが川崎市

二 東海道の おもかげいずこ

左右に展ぶる 大都の翼

高らかに打つ 文化の脈はく

科学に樹つ 栄光

勢い努めて 若き生命を

三 おおふね 巨船つなぐ 小頭の影は

太平洋に 続く波の徳

汗と力に 世界の資源を

集め築く 基礎

今ぞ輝く わが川崎市

* 天川崎市

*は、改訂前の歌詞

◆川崎市歌についてのホームページ

<http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/35-4-0-0-0-0-0-0-0.html>